

2020 年度オンライン公開講座オレンジリボン普及イベント 「防ごう子ども虐待、地域で支えよう親と子」

加藤重子 進藤美樹 出田聡子 藤尾順子 林君江 岡田京子

はじめに

広島文化学園大学看護学部ボランティアサークル主催の児童虐待防止イベント「市民公開講座」は、5 回目を迎えた。

また、これまでのオレンジリボン啓発活動が評価され児童虐待防止月間に合わせて、10 月 12 日にボランティアサークルの学生が呉市の取材を受け市政だよりくれ 11 月号に特集掲載された(写真)。新型コロナ感染拡大の中、開催すら危ぶまれる中、ボランティアサークルメンバーの強い希望「この時期だからこそ開催の意味がある。」とメンバーが一丸となって関係者の支援を受けながらオンライン開催が実現した。

1. 日 時 : 令和 2 年 11 月 29 日 (土) 13 時 30 分～15 時 30 分
2. 場 所 : 新日本造機ホール(旧 くれ絆ホール)
3. テーマ : 「防ごう子ども虐待、地域で支えよう親と子」～子ども虐待防止と通告(通報)の正しい知識を得るとともに地域で支える人がいることを理解するために～

4. プログラム

企画: ボランティアサークル 運営: ボランティアサークル

責任者 1 年生 高光里己菜 1 年生 柏木千乃

総合司会 高光里己菜

運営者 檜垣瑠菜、清水春香、木本彩香、上川華宝、高原和呼、住吉晴花

主催者挨拶 ボランティアサークル

シンポジウム: 「防ごう子ども虐待、地域で支えよう親と子」

ファシリテーター: 3 年生 道原彩乃 楠原千乃

シンポジスト : 呉市主任児童委員 中岡博美 様

稲垣ファミリーホーム 職員 中田友美 様

稲垣ファミリーホーム 専門里親 稲垣りつ子 様

呉市 山口弥生 様

オレンジリボン普及イベント: 呉氏 Jr ダンス

ハワイコーल्ズ&ウイラニによる演奏とフラダンス

看護学部ボランティアサークル顧問 挨拶 加藤重子

5. 関係者: 広島文化学園大学看護学部小児看護学領域教員、吹奏楽部ボランティア

6. 共催 広島文化学園大学看護学部

共催 呉市

後援 NPO 法人児童虐待防止全国ネットワーク

広島県栄養士会

7. 実施結果

児童虐待防止対策に関する関係閣僚会議決定され、「児童虐待防止対策の強化に向けた緊急総合対策」の更なる徹底・強化について（抄）が平成31年2月28日付けで配布され、令和元年6月7日厚生労働省子ども家庭局長より「児童虐待防止対策におけるルールの徹底について」が配布された。以降も、痛ましい事態が次々と報道されている。参加者の児童虐待・児童虐待防止に関する関心は高まっているもののネットワーク体制づくりや児童虐待防止の具体策については、課題がある。

参加人数は、108名「オンラインでじっくり聞くことができました。当事者である中田さんの話に涙が出ました。貴重な話を聞かせて頂き、感謝しています。自分からできることに取り組んでいきたいと思います」との声や、司会を務めた1年生のサークル長 高光里己菜、柏木千乃は「これからも継続してオレンジリボンの啓発活動をしてきたい」「稲垣ファミリーを訪問し、子どもたちと触れ合いたい」「一人も虐待を受けることがない世の中になって欲しい!!と活動意欲を高めています。」「有意義な時間を過ごさせていただきました。」等、感想が聞かれた。

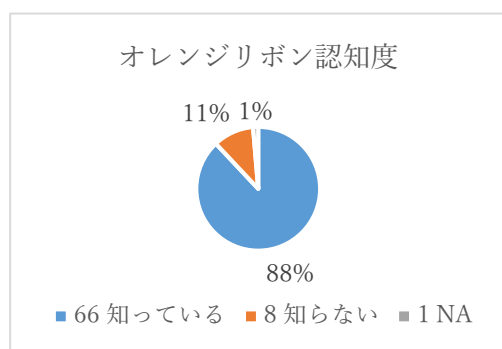
1) 子ども虐待防止市民公開講座参加者の児童虐待に関する認知度についてアンケート調査

(1) 質問項目

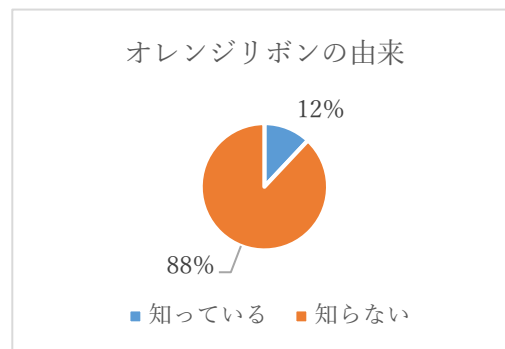
- 問1 オレンジリボンが児童虐待防止のシンボルマーク、問2 オレンジリボンの由来について
- 問3 児童虐待の種類について知っているもの、問4 通報ができるところ、
- 問5 通報は、疑いがあると思うでもできること、問6 通報しても通報者が特定されないことについて
- 問7 オレンジリボンの周知や児童虐待防止の啓発のは、どのような方法が有効か
- 問8 児童虐待防止のためにどれが最も有効か、問9 あなた自身ができること

(2) 回答

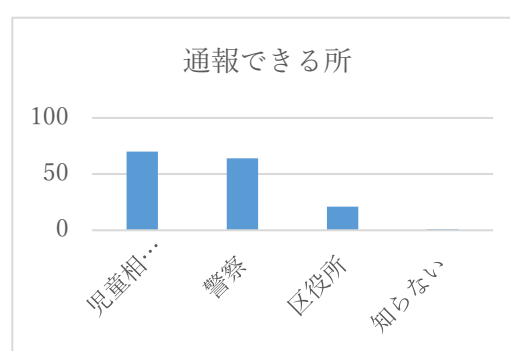
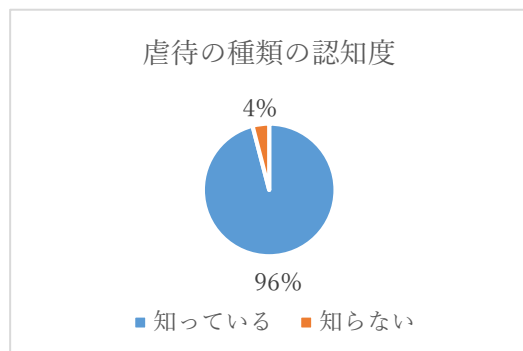
問1 児童虐待防止のシンボルマーク



問2 オレンジリボンの由来について



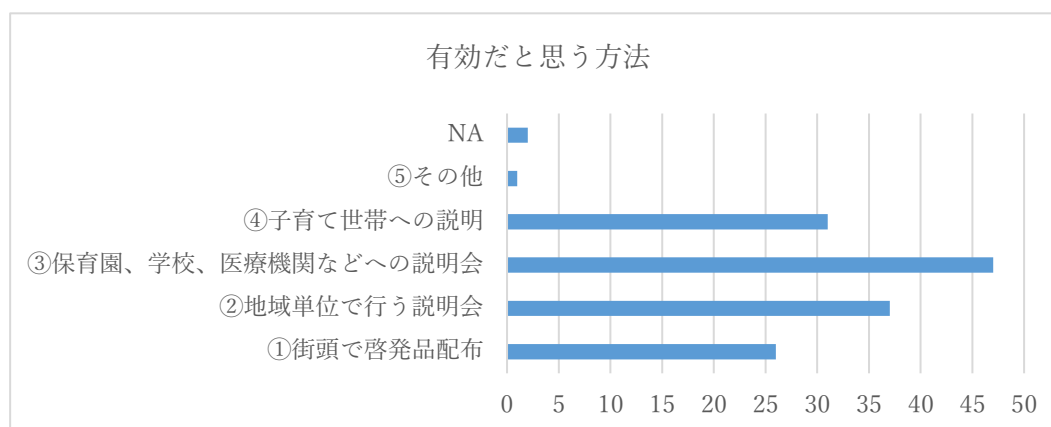
問3 児童虐待の種類について知っているもの 問4 通報ができるところ



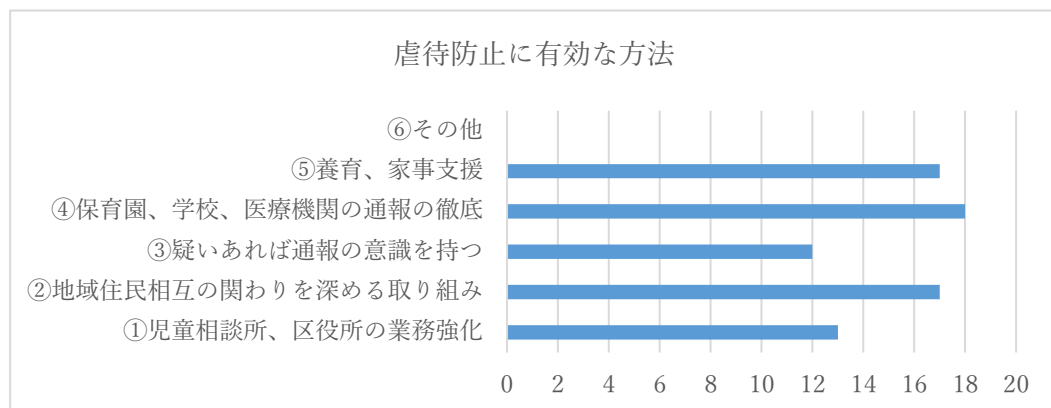
問5 通報は疑いがあると思うでもできる 問6 通報しても通報者が特定されない



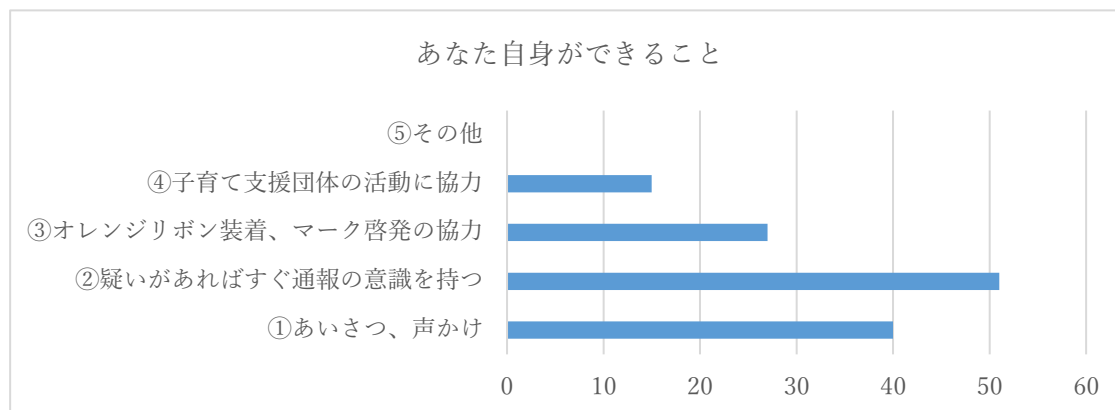
問7 オレンジリボンの周知や児童虐待防止の啓発は、どの方法が有効だと思うか



問8 児童虐待防止のためにどれが最も有効であると思うか



問9 児童虐待防止のために、あなた自身ができること



(3) 学生のアンケート結果のまとめ

- ・ オレンジリボンの学生の認知度は、前年度、前々年度とほぼ変わらず 88%と高い値であった。
- ・ オレンジリボンの由来の認知度は、前年度に比べ増加し前々年度（前々年 13%から前年 7%）とほぼ変わらなかった。
- ・ 虐待に種類があることへの認知度は、前年（88%）今年(96%)と認知度が上昇した。
- ・ 虐待の疑いでも通報できることを「知っている」と回答した者は、88%（前々年 85%、前年 95%）であった。
- ・ 通報者が特定されないよう配慮されることを「知っている」と回答した者は 69%（前々年 68%、前年 76%）であった。
- ・ オレンジリボンの周知、児童虐待防止の啓発に有効だと思われる方法では、「③保育園、学校、医療機関などへの説明会」が最多、次いで「④子育て世帯への説明」が多かった。
- ・ 児童虐待防止のために最も有効であると思われる対策では、前年度同様、「④保育園、学校、医療機関の通報の徹底」が最多、次に「⑤家事支援、療育」が多く、次いで「②地域住民相互の関わりを深める取り組み」であった。今年度初めて⑤が 3 位以上となった。
- ・ 児童虐待防止のための自身の取り組みでは、「②疑いがあればすぐ通報の意識を持つ」が最多で、次いで、「①あいさつや声掛けを心掛ける」が最多であり、「オレンジリボン装着、マークの啓発」が 3 位であった。

コロナ禍で、子ども虐待増加、緊急事態宣言下に伴う、子ども食堂の活動停止などの報道を耳にする機会が多くなった。本学看護学部のボランティア活動においても、子どもシェルターのボランティア受け入れ制限、ファミリーホームへの訪問自粛、大学祭の中止など対面でのオレンジリボン配布活動機会が減少している。次年度は、コロナ禍におけるオレンジリボン啓発活動を工夫して行っていかなければならない。

(4) ボランティアサークル活動の様子（写真）



2020 年 11 月 29 日 新日本造機ホールにて 10 月 12 日市政だよりの取材をうける 3 年生